

佐々木冬流先生

是非受けてみてください

基礎演習

◆この授業は定期的に自分で作文を書き先生に見せます。夏休みの課題では後期のはじめに発表もありました。普段の授業では随筆や紹介文などのテーマでその書き方や特徴を学びました。作文やレポートが苦手な人は是非受けてみてください。

懐かしい気分

日本文化史

◆佐々木先生の日本文化史の講義は、板書はもちろんですが、講義中に先生がおっしゃることをノートに書き写すのが主でした。先生の講義では、私たち日本人の心や文化の成り立ちを、それをはぐくんできた我が国の風土や歴史などの関係を織り交ぜながら解りやすく解説してくださいるので、とても楽しかったです。

◆この授業を通して日本の文化、特に日本人の宗教観について考えることができた。なんとなく神道と聞くと太平洋戦争当時の国家神道をイメージしがちだが(私だけでしょか?)、日本の神道の本来は戦中のそれとは異なるものと民間信仰的なものだったと聞き、私の中の神道の悪いイメージを払拭できたように思う。といったも、そのころ自然物(山や木、岩など)を信仰の対象とするような宗教を

共通科目など

諸星政得先生

太古のロマン

考古学

◆資料も多く、レジメも細かく書いてあるので分かりやすいです。先生もとても熱心に授業をしてくれます。太古のロマンを感じたい人は是非受けることをお勧めします。

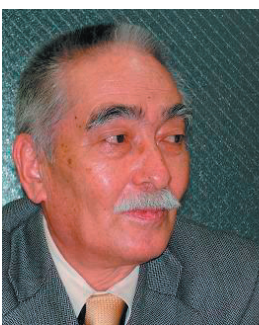
諸星先生の考古学の講義は、その時々々の新聞記事やニュースなどを講義内容に織り込み、解りやすい解説をしてくださいます。講義中に、解りやすいように図を書いてくださるのも、ためになりました。毎回、数多くの資料とレジメを配布してくださいるので、後々に講義の内容の復習等がともしやすかったです。

また違った世界が

日本文学II

この授業は江戸時代初期に編纂された百物語《怪談話》を中心に講義が行われる。ひとつひとつの怪談話はほとんど短いので一回の講義で多いときには三つの話が聞ける。そのなかには一般的に有名な怪談話もあるが大半は初めて聞いた内容が多いので、いろいろ楽しめる。

でもただその話を聞くだけではなく、なぜ怪談話が庶民の間で広がっていったのかを自分なりに考えていくとまた違った世界がみえてくるかもしれない。



伊東正男先生

わかりやすく学ぶ

比較文学

◆日本とイギリスの演劇の違いを軸に先生の優しい語り口で講義が進んでいく。毎回授業の前半では(イギリスでは)シェークスピアの映画を中心に、後半は(日本では)黒澤明監督の映画を比較。シェークスピアの作品が日本の映画界にもこんなに影響していたのかと、わかりやすく学ぶことが出来る。このようにビデオを鑑賞しながら授業が行われるため、楽しく学ぶことが出来ると思う。

浅野義先生

穏やかな口調で

国際経済I

◆この授業では「マクロ経済学」の基礎を学んでいく。慣れるまではちょっと難しく感じても大丈夫です。慣れてくると、基礎的なことを学べば簡単に解くことが出来ると思う。講義では先生の穏やかな口調でわからないところは丁寧に説明してくれるので、初めて経済学に触れる人も大丈夫だと思える。

みんなが大好き

社会科・地理歴史科教育法

◆教育実習に備え、生徒にわかりやすく教える方法を考えたり、地理や歴史を学びました。先生も優しく面白いです。みんなが大好きな先生でした。勉強の話ばかりではなく、季節にあつたお話や最近話題のニュースなど、自然に興味を持てる内容から学ぶことができました。

ハリス・アイヴズ先生

とても楽しいです

英語コミュニケーション

◆ちよつとお茶目な先生の授業です。会話中心なので、文法が苦手な人でも平気です。し、間違っても直してもらえないので安心です。たまに映画を観たり、クイズなどを交えた授業なのでとても楽しいです。

藤田悟先生

辞書なしで読む

CIS Reading

◆この授業で、全文英語の本(ちよつと厚め)を読み、テストを受けるを繰り返して、日本語で文章を読み思考するときと、英語で文章を読み思考するときでは、使っている脳が違う気がしました。

◆この授業では「マクロ経済学」の基礎を学んでいく。慣れるまではちょっと難しく感じても大丈夫です。慣れてくると、基礎的なことを学べば簡単に解くことが出来ると思う。講義では先生の穏やかな口調でわからないところは丁寧に説明してくれるので、初めて経済学に触れる人も大丈夫だと思える。

◆この授業では「マクロ経済学」の基礎を学んでいく。慣れるまではちょっと難しく感じても大丈夫です。慣れてくると、基礎的なことを学べば簡単に解くことが出来ると思う。講義では先生の穏やかな口調でわからないところは丁寧に説明してくれるので、初めて経済学に触れる人も大丈夫だと思える。

◆この授業では「マクロ経済学」の基礎を学んでいく。慣れるまではちょっと難しく感じても大丈夫です。慣れてくると、基礎的なことを学べば簡単に解くことが出来ると思う。講義では先生の穏やかな口調でわからないところは丁寧に説明してくれるので、初めて経済学に触れる人も大丈夫だと思える。

◆この授業では「マクロ経済学」の基礎を学んでいく。慣れるまではちょっと難しく感じても大丈夫です。慣れてくると、基礎的なことを学べば簡単に解くことが出来ると思う。講義では先生の穏やかな口調でわからないところは丁寧に説明してくれるので、初めて経済学に触れる人も大丈夫だと思える。

◆1年間さまざまな英語の本を読むことにより、英語に親しむとともに、話の展開を予測しながら英語の本を読む習慣が確実についていると思つた。今までは辞書に頼りがちだったが、今では不安に思うことも少なくなった。

◆今までは辞書に頼りがちだったが、今では不安に思うことも少なくなった。

◆今までは辞書に頼りがちだったが、今では不安に思うことも少なくなった。

◆今までは辞書に頼りがちだったが、今では不安に思うことも少なくなった。

◆今までは辞書に頼りがちだったが、今では不安に思うことも少なくなった。

◆今までは辞書に頼りがちだったが、今では不安に思うことも少なくなった。

◆今までは辞書に頼りがちだったが、今では不安に思うことも少なくなった。

◆今までは辞書に頼りがちだったが、今では不安に思うことも少なくなった。

◆今までは辞書に頼りがちだったが、今では不安に思うことも少なくなった。

◆今までは辞書に頼りがちだったが、今では不安に思うことも少なくなった。

◆今までは辞書に頼りがちだったが、今では不安に思うことも少なくなった。

◆今までは辞書に頼りがちだったが、今では不安に思うことも少なくなった。

◆今までは辞書に頼りがちだったが、今では不安に思うことも少なくなった。

『描かれた源氏物語』

三田村雅子・川添房江編

翰林書房

『中国ミステリー探訪』井波律子

NHK出版

『韓国人が日本人によく聞く百の質問』増田忠幸他編 三修社

『俳句の基本とその応用』大輪靖宏著 角川学芸出版

『西鶴が語る江戸のラブストーリー』西鶴研究会編 ペリかん社

『グーグルGoogle 既存のビジネスを破壊する』佐々木俊尚著 文春文庫

藤田悟

『日本という国』小原英二著

理論社 よりみちパンセ

『日本人はなぜ英語ができないか』

鈴木孝夫著 岩波新書

『戦争という仕事』内山節著

信濃毎日新聞社

堀口悟

『日本語ウォッチング』井上史雄

岩波新書

『香の手帖』香老舖松栄堂広報室

編 福武文庫

森謙二

『いのち』と家族―生殖技術と

家族―太田素子・森謙二編

早稲田大学出版部

『格差社会』橘木俊詔著 岩波新書

『新平等社会―希望格差』を超えて』山田昌弘著 文芸春秋社

『下流社会―新たな階層集団の出現』三浦展著 光文社新書

『危険社会―新しい近代への道』

ウルリヒ・ベック著 法大出版部

NHK特集

「グーグル革命の衝撃

あなたの人生を「検索が変える」を見て

染谷智幸

私の授業「地球市民論」では、古代の無文字社会から現代のインターネット社会までのメディアの歴史を取り上げています。今回の授業では1月21日(日)の午後9時からNHKで放送された「グーグル革命の衝撃」を見、私が解説した後、学生のみなさんに感想を書いてもらいました。その一部を紹介します。

使いこなす

◆何かをするとき、グーグルの検索結果を判断材料とする人が多く、手術をする病院さえもグーグルで上位だったからという理由で決めるといっているのか?と疑問視してしまいが、「病院を検索し、さらに先生を検索。この先生なら」という使い方を聞いて、なるほどと感心した。

ただ、グーグルに振り回されるだけでなく、グーグルを使いこなし、上手に情報を得ることが大切なのだと思います。

先を読む

◆多くの人が現在、インターネットの検索機関に頼って生活しています。最近まではよくYahooが一番だと言っていました。友人数人うちでも「グーグル」を今までは「Google」の時代です。友人うちでも「グーグル」とまで言うくらいにGoogleは私たちの生活に根付いているのです。私もホームページを設けているので広告収入ということばになじみ

があります。広告収入で月90万円もの収入がある人がいるのは驚きました。高額な広告収入を得るには人が沢山アクセスしたくなるような高度なWEBサイトづくりが要求されてきます。検索順位も弱肉強食。まめに更新しないとWEBサイトはすたれていきます。

このように情報化社会への移行を実感しているところですが、時代のニーズに合った行動、より進んだものを手に入れるには「次」を見ることが大切です。今だけでなく、安定した未来をみすえて、先をよむことで、時代のニーズに合い、高収入が得られます。

記憶すらもグーグルの中に

◆キーワードを入れるだけで自分の知りたい情報がたくさん手に入る時代。それは一見便利なものかもしれない。しかし、それをすべて鵜呑みにしてしまつてよいのだろうか? 現代人は、はたしてほんとにネット社会を正しく

利用できているのだろうか? 私たちはネット社会に振り回され、ネット社会に使われ、埋もれてしまつていく気がする。グーグルの検索順位が、15位までに入らなければ、その企業は存在しないのも同じと番組の中で誰かが言っていた。

企業の存在価値までも決めてしまうグーグル。番組に登場したデールさんのように、ホームページだけでお金が入り、大学もやめ、就職もせずにいる生活。ほぼニートと変わらないと私は思う。ほしいものはネットで買い、大量の個人情報、グーグルにゆだねられる。過去に自分が何をしたか、自分自身が忘れていても、グーグルに記録が残っている。記憶すらもグーグルの中にある。企業も人々の生活もすべてネット社会に依存し動きはじめていくこの社会。私は、この社会が健全なものだとは思えない。

便利なことは、良いことかもしれないが、どこまでを

ネットに頼り、どこから自分の力でやるか、きちんとした境目をつける必要がある。

配線一つがこわれただけで

◆グーグルの求人広告が計算問題で、その問題を解いた人だけが求人広告を見れる、という発想に思わず「あく面白」と呟いてしまった。門の前ですでに振り分けが始まっているのだなんてすごい。でもネットというのは便利だけではない、配線一つがこわれただけで使えなくなるのでは? クリック一つで膨大な情報がひらけるけれど、もし自然災害などに襲われた場合、肝心な情報は見られなくなるのではないだろうか。そういう危うさというか、紙一重な部分があるように思えた。

「出張 アジアンバザール」

大みか町商店街の方々と共に

田中悠介

私は三年生の夏にカンボジアでの日本語教育ボランティアに参加したことをきっかけとして、ICANNの一員として学園祭へのアジアンバザールの出店や、その買い付けをしています。それに付随して毎月、第一日曜に大麩町商店街の方々(皆さんもご存知の入船寿司さんなど)が主催する「大麩町交流祭」にアジアンバザールの縮小版「出張アジアンバザール」を常陽銀行大みか支店隣の石川花屋駐車場にて出店して

ます。セールストーク

これは意外と知られていないのかと思うのですが、実は学園祭で毎年ご好評いただいておりますアジアンバザールの商品を毎月買うことができます。しかもうまくすれば掘り出しものに出会える

のも毎年、学園祭での販売を目的に買った商品のうち、輸送に時間がかかってしまつたりして販売できなかった商品等を出品していることがあるので、学園祭ではお目見えしなかった商品を買うこともできます。さらになんとディスプレイもしてしまいます。

とセールストークはこれくらいにしておいて。ここでは実際に出張アジアンバザールの活動としてどんなことを行っているのか、ということとを述べていきたいと思います。

学園祭とここが違う

まず、学園祭での販売と

異なる点の一つとして「客層の違い」があげられます。学園祭では学生から一般の方まで幅広い客層をとらえることが出来ますが、出張版では会場にいるのは中・高年で特に女性が多いので、商品もその客層を踏まえたものにする必要があります。

商店街の出し物が楽しい

商店街の方々と一緒になつて出店することは学園祭とはまた違った楽しさがあるように思われます。学園祭での慌ただしい雰囲気とは違つてのんびりお店を構えていられることも魅力です。毎回、朝9時から午後3時くらいまでの出店なのですが、その回ごとに商店街の出し物が違うのでそれも楽しみの一つです。出し物はじゃんけん大会や「爆弾屋」と呼ばれるお菓子屋さん(作る時に爆弾が爆発するような音がするため。決して危ない商売ではありません。)など様々です。私自身もじゃんけん大会に出場したり入船さんがやっている餅つきに参加したりと毎回楽しませて頂いています。興味を持った方は是非覗きにきて下さい。



一緒に活動してみませんか？

あじあんねいばーふつど・ねつとわーく I CANN 根本知恵

I CANN

私達 I CANN は、主に日本語教育ボランティア、アジアンボランティア・サポート基金、学園祭でのアジアンバザールの出店を行なっています。

日本語教育ボランティア

日本語教育ボランティアは、毎年夏(8月〜9月)にプノンペン集合、解散の日程で行っています。カンボジア・プレイベン州にある『カンボジア日本友好学園』において、新7年生(日本では中学1年生)の生徒を対象に、日本語で日本語を教えるという二週間のプログラムです。

06年は、藤田悟教授と私達学生グループ7名、ボランティアの後半からは、算数の授業を行なう3名も一緒に合計11名のグループとなりました。



た。

現地生徒の希望者を募ったところ、8年生や9年生の希望者もあつたので、合計としては二百名程の生徒達が参加となりました。初めのうちは圧倒されていましたが、毎日の授業を通して親しくなるにつれ、一人一人の生徒とコミュニケーションが取れるようになりました。

友好学園を卒業し大学へ入学する学生は、私達の通訳をしてくれたり、授業の準備を手伝ってくれたり、何よりも私たちと年齢が近いため休み時間には沢山の話をしたりと、友達として仲良くなることができました。

ボランティアサポート基金

I CANNでは、アジアンボランティア・サポート基金という募金活動の呼びかけも中心となっております。スマトラ沖大地震の被災地に

ボランティアに出かける卒業生をサポートしようと、05年から始めました。

先に述べた日本語ボランティアなどに参加する学生の交通費などの補助に当てたり、出張アジアンバザールの交通費補助としています。

毎年6月と12月に1号館ラウンジと学生会館にて呼びかけがあり、先生方や学生のみなさんにご協力頂いています。学内にて見かけた時には是非ご協力をお願いします。

アジアンバザール

毎年行なわれる文化祭では、学生達が直接現地(タイ・ミャンマー・カンボジア・ベトナム)へ行って買い付けて

きた雑貨や衣類などを販売しています。「アジアンバザール」という名前を聞いた事がある方も沢山いるのではないのでしょうか？ 雑貨以外にも「アジアン・カフェ」ではベトナムコーヒーや工芸茶(中国、ゆず茶(韓国)...)など、アジアの香りいっぱいのお茶店も営業しています。また、各地のボランティア活動の紹介パネルなどを展示します。去年の学園祭では、沢山の

方に足を運んで頂き、売れ行きも好調に2日間を終えることができました。この「アジアンバザール」は「出張」アジアンバザール「6面参照」としての活動も行なっていて、学園祭だけでなく活動の幅を広げています。

これらの活動に興味がある方、もしよかつたら私達と一緒に活動してみませんか？ 「もっと詳しく話が聞きたい」という方も大歓迎です。

語教育講座を受け、最近ようやく説明出来るようになってきたが、教える側の、学習者に対しての正しい教え方・知識の大切さを深く実感している。

と話せる最も楽しみなひと時だ。現在私は、中国の生徒5人を教えている。みんな真面目で勉強熱心。おかげで順調に活動できていると思う。「中国語では何て言いますか?」と尋ねると、発音まで丁寧に教えてくれるし、自分の国のことも嬉しそうに話してくれる。私にとっても授業は学びの場なのだ。最初は、日本語が全く出来ず「こんにちわ」しか話せなかった生徒も、一年間で、簡単な日常会話ができるようになっただけでなく、自分のことを流暢に話せるようになった。

日本語で日本語を教える 誰にでも出来ることでは……

青山真由美

「こんばんは。今日も寒いですね。」日本語教室「フレンドリーあんず」でボランティアを始め、6月で1年になる。雑談から始まる毎週火曜日19時からの活動は、いまやすっかり私の日常となった。

きっかけは友人に誘われたこと。もともと海外には興味があつたし、自分でも誰かの役に立てるならと軽い気持ちで入会した。

外国人に日本語を教えるボランティアをしていると言うと、「すごいね! 何語ができるの?」とか「英語大変でしょう?」と返されることが多い。しかし、私ははつきり言っていて英語は苦手だし、授業でも外国語は全く使っていない。日本語で日本語を教える

日本人であれば誰にでも出来るだろうと思つて始めたボランティアだが、その難しさに直面するのになんか時間ばかりかかった。「納豆はおいしいじゃありません。」「それはきれいなきれいな意味は伝わるけれど、日本人の私たちがからすると明らかに違う。しかしうまく説明できず、私には訂正し言い直させることしか出来なかった。

平仮名、片仮名、漢字。「い形容詞」、「な形容詞」、動詞の活用、グループ分け、様々な助詞:日本語ってなんて面倒なんだろう。普段何気なく話しているこの日本語も、客観的に見てみるととても難しいことに気付いた。ベテランの方の教え方を見たり日本

その日が私の誕生日だと話すと「生日快乐(ジョンイカイルー)」や「お誕生日おめでとうございます。」と、一人一人メッセージを書いてプレゼントしてくれた。書道の半紙も、みんなの優しい笑顔も私の大切な宝物だ。様々な背景と目的を持って



icann@hotmail.co.jp

ご連絡は右記のメールアドレスまで。携帯からも送れます。

日本に住む外国人を、「客」としてではなく、同じ地域に住む「仲間」として見られたら、また、彼らが楽しく過ごせるように手伝えたら、とても素敵なことだと思う。正しい日本語離れが叫ばれる今日、日本人である自分が改めて日本語について考える機会を持つたことも良かったと思つている。何年続けられるか分からないが、この日本語ボランティアは、私の生涯のかけがえない財産となるだろう。

☆「フレンドリーあんず」は外国人に日本語で日本語を教えるボランティアグループ。

◎火曜教室 19時〜20時45分(日立市鮎川町女性センター4階)

◎金曜教室 14時〜16時(日立市神峰町教育プラザ一、二階)

初心者の入会も歓迎。現在教師が不足しているので、興味のある方はぜひ見学にいらしてください。

日韓四大学共同シンポジウム報告

日韓における外来文化の受容と伝来

言語文化研究所長

染谷智幸

昨年十一月十八日、十九日に、明知大学、関東大学(以上韓国)、桜美林大学(日本)を本学に招いて日韓シンポジウムを開催しました。テーマは「日本と韓国における外来文化の受容と展開」。

桜美林大学名誉教授安宇植先生の基調講演に続き、発表は、韓流ドラマの分析、フアツシヨンからコンピュータ用語、キリスト教の翻訳の問題など多岐にわたりました。

本学からは文化交流学科の斎藤聖二先生と藤田悟先生が学術発表をされました。斎藤先生は、日本が近代国軍をどう作りあげたのかを、緻密かつダイナミックに整理され、藤田先生は、必要以上に英語を評価する志向を「英語病」と指摘、その病癖の分析を鋭く展開されました。緩と急陰と陽、ストレートとフオー



「日韓における外来文化の受容と展開」シンポジウム
18日(土)、19日(日)



クの違いはありましたが(どちらがどちらとは言えませんが)、さすがに本学を代表する学識をお持ちのお二人、他大学の先生方を唸らせずにはおきませんでした。写真を載せましたので、日頃見られない真剣?な表情の両先生をご覧下さい。

なお、このときの資料(冊子・発表内容が読めます)が言語文化研究所にありますので、欲しい方は染谷までご連絡ください。

「アンコールワット観た〜い!!」
「じゃあ行く?」
タイ・カンボジア旅行記 佐々木美穂



「アンコールワット観た〜い!!」
「じゃあ行く?」

こんな会話から始まった二人旅。行き先はタイ・カンボジア。目的はアンコールワットを観ること。ついでに買い出し。細かいことはほとんど決めず、かなり大まかな計画のまま相方と二人、カンボジア目指して飛び立ちました。

実は私、カンボジアに行くのは2度目なのです。1度行っているし、まーなんとなくなるだろー的なかるい勢いで旅に出ることを決めました。バンコクに着いてすぐ相方の風邪が悪化し、なんとか回復したと思っていたら、最後三日間くらいは二人して体調不良になるという予想外のことがありました。無事帰ってくるのが出来ました。

カンボジアは不思議な国です。たかさんの魅力と当たり前のやさしさが存在しています。居心地が良くて日本に帰るのが寂しくなるくらいです。一度行ってみたい。バンコクでは前述したように二人そろって体調不良になっていたので、ほとんど動けませんでした。そう不覚にも下痢になってしまったので、ちなみに相方は再び風邪。私より相方が重症でほとんど寝て過ごし「タイが受け入れられない」と嘆いていました。

私はお昼を過ぎるとお腹がだいぶ落ち着いていたので一人買出しにくりだしました。ゲストハウスからカオサンロードまで何度も往復し無事買い出し終了。水上マーケットやスクンビット通りなどに行っているいろいろ観て回りかけたのですが、無理はせず、できる範囲で買い物しました。説明が遅くなりましたが、この買出しは学園祭で行うアジアンバザール、月に一度大甕の商店街の方々が運営する交流祭に出店するための買い物です。どのような物があるか考えながら買い物をするのでなかなか難しいですが、やってみると面白いです。値切るのも楽しみの一つです。



お友達と合流した夜まで一日半くらい行動をともにしていました。お互いの連絡先を交換し、お友達のいるホテルまで送り、日本で会う約束をして別れました。

友達になれた気がします。そのせいもあって別れるのはすこし悲しかったです。ホーンさんとは日本に帰ってきてからもメールでやりとりしています。今は仕事が忙しいそうです。

編集後記

●最近パソコンで音楽を作ってみようと思ってインターネットで「フリーソフト」なるものをダウンロードしまくっています。しかし無料なだけあって入っている音が結構ショボい……。パソコンで作れば全部のパートを一人で作れるし編集も自由にできると思って大喜びのはずでしたがこれが甘かった。こだわるとやはり金がかかるんだということを知りました。自分は結構部屋にこもって自分の城を満喫したい人間なのですが、稼ぐためには外へ出て働かなければ(運動も兼ねて)。パソコンを編集して音楽作ってインターネットでニュースや天気予報見て、とやっているの一体俺は一日何時間パソコンの前に座っているんだ!と思うことがあります。紙に手で字を書きたい衝動にかられる今日この頃です。いつそのこと江戸時代に生まれかけた。実家が農家なのできつと小作人です。「田中悠介」

●この号から編集作業への学生の参加が本格化しました。さらにこれを加速させて、早い時期に学生主体の編集部にしたいともくろんでいます。編集部を常設として取り組めば、いろいろ新しい企画も考えられると思います。編集部員は有給のアルバイトになります。学科の予算がついたからです。有償の仕事となれば責任もともないです。苦勞もあるけれど、面白みもある仕事です。編集にかかわりたい人はご連絡ください。また、紙面に関するご意見ご感想もお寄せください。当面の連絡先 fujita-s@ic.ac.jp 「藤田悟」